

# 石神中学校だより15号

発行日：令和2年11月19日

2020重点目標〈自ら学び、夢の実現のためにやり抜く生徒〉 文責：校長 佐藤恭司

## 「パスポートのいらない英国 British Hills」 研修に行ってきました！〈1年生〉



11月9日（月）、岩瀬郡天栄村にある『British Hills』に英語研修に行ってきました。British Hillsは「パスポートのいらない英国」がキャッチフレーズの語学研修施設です。全国各地から小中高生が宿泊での研修で利用しています。本校が訪ねた日も、大阪の高校生が2泊3日の研修を行っていました。本校の生徒たちは、中世英国を忠実に再現した施設で英国文化に触れることができ、海外旅行のように新鮮な気分を感じたようでした。また、レッスンでの外国人講師との英会話のみのやり取りに、知的好奇心を高めていました。

外国人講師の英語を、始めは上手く聞き取れなかった生徒たちも、レッスンの後半には徐々に会話を弾ませ、笑顔で楽しく学習に取り組んでいました。ランチは多くの生徒たちから、「美味しかった！」と好評でした。日帰りの英語研修でしたが、外国人講師陣、施設スタッフとの英語でのやり取りを通して、英語への苦手意識解消、英会話能力の向上にいい変化の兆しが見られた研修となりました。生徒たちは以下のレッスン(①・②、③・④からそれぞれ一つずつ選択)から選択し、学習に取り組みました。



① **British Hills Experience (ブリティッシュヒルズ エクスペリエンス)** スタッフと様々な(海外滞在中に起こりうる困難な)状況に応じた会話を楽しみ、海外で実際に過ごしているような体験をしました。

② **Survival English (サバイバル イングリッシュ)** ブリティッシュヒルズでの滞在 研修にちなんだ質疑応答に焦点を当て練習をし、その後は施設内を探索し、ブリティッシュヒルズのスタッフに質問をしたり、会話を楽しんだりしました。

③ **3D Pictures (3D ピクチャーズ)** イギリスで昔から愛されている 3D ピクチャー作りを楽しみました。綺麗な多層アートの作り方を学んで、出来上がった作品は研修の記念になりました。

④ **Embossed Cards (エンボス カード)** カードにお気に入りのスタンプを押し、絵が浮かび上がるように加工したグリーティングカード作りを楽しみました。出来上がった作品は研修の記念になりました。

生徒に知って欲しい生活に役立つ“ことわざ”Ⅱです。

## 「三人行けば必ず我が師あり」

孔子（前 551 ～前 479）中国・儒教始祖  
これは論語にある言葉です。「三人行けば、必ず我が師あり。その善なる者をえらびてこれに従い、その不幸なる者にしてこれを改む」というのです。その意味は、三人で道を歩いていると、他の二人から必ず教えられることがあるはずで、長所があればそれを見習えばいいし、短所があれば自分の反省に役立てればよいというのです。さらに「どんな小さな村にも、私のような誠実な人間はいるはずだ。だが私ほど勉強好きな者はどこにもいないだろう」と言っています。貧困の中で育った孔子は、周りの人からも学んだのです。人付き合いの大切さも教えているのですね。



秋から冬にかけ、枯れ葉や校庭の土が、風や雨とともに水路にたまり、流れをせき止めてしまうこともあります。用務員の表信義さんは、黙々とスコップでたまった土を取り除いています。一輪車数台分の土を搬出しました。

## 学校を支える二人の用務員さん

広い校地内では雑草の除草作業に悩まされます。技術室前フェンス沿いの雑草を刈る用務員の豊田さん。きれいに除草して頂きました。



## ～ねがい～ <幸せと不幸：ものの見方を考える>

秋は読書の季節です！

以前に読んだ本の一節を紹介します。



幸せと不幸は、背中合わせのことが多い。幸せの中に不幸の芽が有り、不幸の中にも幸せを感じる時があるのだ。

「あるおばあさんが、眼の手術をうけた。手術は成功で、おばあさんは目が見えるようになり、喜んで自宅に電話した。“迎えにきておくれ”と息子に頼んだのだ。しかし、“眼が見えるなら、自分で帰ってくればいい”と息子はいった。おばあさんは泣いた。たくさん泣いたので、臉がみるみる腫れ上がった。そして、大きく腫れて、眼が見えなくなってしまった”。

このおばあさんの気持ちはどんなだったろう。また、そう言った息子は、どんな気持ちだったのだろう。様々な感情がじゃまをして、たとえ親子であっても、個人の幸せを自分のこととして喜び、人の不幸を自分の不幸として悲しむことは難しいです。それと同時に幸せと不幸が、背中合わせであることを感じさせられる内容でした。皆さんはどう感じましたか。

吉行淳之介「おしまいのページ」(文春文庫)より

